

宿根かすみそうの秋冬どり作型

南部分場

1、背景とねらい

宿根かすみそうは低温性の作物のため、これまで夏季冷涼な高冷地を中心に夏秋どり産地が形成されてきている。

一方、高冷地と暖地との端境期である10~12月は出荷量も少なく高価格で取引されている。

そこで、本県沿岸部の秋冬期温暖な気象条件を活用した宿根かすみそうの秋冬どり作型を確立するため、定植時期、マルチ・電照効果を検討した結果、成果が得られたので参考に供する。

2、技術の内容

1)秋冬どり作型の定植時期、収穫期

電照	定植時期	マルチ	収穫期
無電照	7月下旬	白黒ダブルマルチ	9月下旬~11月上旬
電照	8月上旬~8月中旬	〃	10月上旬~12月中旬

2)マルチ効果とマルチ資材

(1)マルチにより土壌水分が保持され、初期生育が勝り、収量が増加する。

(2)マルチ資材は地温の上昇を抑制する白黒ダブルマルチとする。

3)電照効果と方法

(1)秋冬どり作型では、電照により品質、収量が向上する。

(2)電照方法は間欠照明とし、午後10時から午前3時まで1時間毎に10~15分間点灯する。8~10m²に100w白熱灯1個使用して40~50LUX程度の照度を確保する。

(3)電照期間は8月中旬から開始し、抽台始めまでとする。

4)適応地域 中南部沿岸

3、指導上の留意事項

1)品種はブリストルフェアリーを用い、さし芽苗利用とする。

2)反射マルチは白黒ダブルマルチと同程度の効果が期待できるが、資材価格が高い

3)栽植様式は畦幅135cm(床幅40cm, 通路95cm), 株間25cm, 1条植え, a 当り296株とし、畦の高さは20cm程度とする。

4)定植後、草丈が20~30cmになって側芽が発生するまで灌水を励行する。

5)この作型はハウス無加温栽培であるが、夏季は定植後、雨よけ状態とし、高温障害花軽減のため十分換気を図り、温度低下に努め、30℃以下とする。

サイドビニールによる保温は夜温が12℃以下になったら行う。

4、試験成績概要

表1 マルチ、電照栽培と切花品質、収穫期、収量

電照	処 理 区		草丈 (cm)	開花 枝数 (本)	切花 重 (g)	強度 (cm)	高温障害 花割合 (%)	収穫 始め (月日)	収量(本)	
	マルチ	定植時期 (月日)							株当り	a 当り
無 電 照	黒マルチ	7・22	65.4	3.4	40.4	1.8	12.9	9・26	2.5	741
	白黒マルチ	7・22	67.4	3.6	41.3	1.3	33.3	9・18	2.4	711
	"	8・1	74.7	3.4	50.6	0.8	3.3	10・16	3.3	978
	"	8・10	81.4	3.5	65.0	0.9	4.8	10・25	2.0	593
	"	8・20	—	—	—	—	0	—	0.1	30
	反射マルチ	7・22	63.4	3.4	36.0	1.3	41.9	9・18	2.4	711
	裸 地	7・22	59.2	2.9	43.5	0.4	0	10・31	0.8	237
	"	8・1	67.7	3.0	47.5	0.2	0	11・7	0.5	148
	"	8・10	—	—	—	—	—	—	0	0
	"	8・20	—	—	—	—	—	—	0	0
電 照	白黒マルチ	7・22	71.2	3.6	40.6	2.5	11.3	9・26	3.8	1,126
	"	8・1	70.5	3.7	41.1	1.9	2.2	9・26	3.9	1,156
	"	8・10	74.3	4.0	39.4	1.5	0	10・9	4.3	1,274
	"	8・20	84.2	3.8	49.4	0.5	0	10・31	3.6	1,067
	裸 地	7・22	52.7	3.2	28.6	1.9	14.7	10・1	2.3	681
	"	8・1	61.1	3.5	29.5	0.6	0	10・25	0.8	237
	"	8・10	69.1	3.9	36.8	0.3	0	10・16	1.5	444
	"	8・20	—	—	—	—	0	—	0.2	59

注) 高温障害：花卉が大きくなり、花卉の色が緑色を呈する現象。雄ずい分化期(8月下旬)に30℃以上の高温に遭うと障害花(奇形花)の発生が多くなる。

強度：茎の先端の下垂程度であり、数字が小さいほど強い。